

農園便り 12

月号(119号) 文責 筒口 典康

10月10日、清瀬・中里の松村氏来訪。 イチゴ苗、サトイモ、ゴボウ。を戴く。 かなり前、サカタ種苗の友の会の月刊紙「園芸通信」に氏の「イチゴ栽培コツのコツ」(3ページ)の記事。で、勉強させていただきました。 戴いたイチゴは、さすがの苗。 親株のランナーから養成、「根」「葉柄」がしっかりと張り、葉がぶ厚いのに驚く。 農園33区 サトイモの後畝に植えました。

サトイモ畝は、「土寄せ」、「刈草マルチ」で、こんもりした畝になっております。 刈草マルチをどけまして、「ダルマ堆肥」(タキイ)「みのり堆肥」(農協・バーク堆肥)「ソマチット」(粉末を少々、先月号1P)、「有機ボカシ肥」(自作)で補充する。

敷き藁は、サトウキビの刈草を予定しています。が、… 激しい腰痛で、7日ほど菜園に出かけていません。少々心配です。

このイチゴの苗は、耐・病虫害性の品種で、ほとんど農薬を必要としないとのことで、ありがたい。 11月15日、降雨。ホッとす。

今日(11/15)は、関町病院でコロナ、インフルエンザワクチンの同時接種の接種日でしたが腰痛で歩けなくなり、キャンセル。 12月6日に延期。丁寧な案内に感謝する。

小さなガラスルームの保温強化の作業に頑張り過ぎて、「腰」を痛めたようだ。梱包用のプチプチシート(二重張り)。スチロールの板の移動。鉢の移動など色々ありました。

戴いたイチゴ植える



サトイモ 何と、差し渡しが50cm



サトイモ 芋株の差し渡しが30cm。2株もいただきまして食べきれない。電動のイモ洗い機がありますので、洗ってご近所に配る。 年配の方には泥付きのままで…。 何しろ超大株である。 親芋はソフトボール程もあるかと思う大株だ。 松村さんは、親芋は食べないと言う。 茎葉高は、3~4mにも育つという。 我が家では正月料理の定番。鳥のひき肉と合える。定番である。味噌汁に大根と芋。 美味しいですよ。 お正月の楽しみを確保。

我菜園33番では、サトイモにも除草剤が…。 枯れあがった葉柄、芋。茹であがり、とろける。 畝を何度も何度も水で洗浄する。

松田さんにいただいた芋苗を1月遅れで、植え直す。 その芋も11月に入って外気温が下がり、成長が止まる。 茎葉の高さは1m50cmどまり。 もった

いないので、元株の親芋もいただきました。

サトイモ、ミズバショウの仲間には有毒なものがあると聞いていますから、里芋の元芋は食べないのではありませんか？ 食味が余り良くないせいでありましょうか、大きすぎて調理が難しいせいでありましょうか、・・・解らない。

里芋の仲間に葉柄の赤い「八ツ頭」がある。 柄を野菜として食べました。乾燥野菜として日に晒して、冬場に食べます。 少しいグ味があるところが美味しい。 最近では青茎の品種でもエグ味のないものが出てきたようですが。青茎は、ほとんどの種類でエゴイなので食べない。

今年も松田さん、しっかりと作られて、3m近い背丈。 有機物ボカシ(井の頭動物園の飼料ゴミ)、同園の獣舎の敷き藁、落ち葉堆肥(ご近所の農家にもらう)。収穫時の観察はできなかったのですが、巨大な株に育っていたようです。 皆さんが驚かれていた様です。 私の33区は、彼(松田氏)の耕作跡地であります。

農園の南東角の日当たりの良い区画です。 彼れの前の方も有機栽培でしたから、6年以上、完全有機栽培が続いています。 それが、「除草剤散布」で全滅。 全く、腹立たしい……。 許せませんね。

白菜、ゴボウ、ネギ、などの野菜たちから味が出る。 ネギのお吸い物、ほんのりとねぎの香り 旨い。 街道筋の和食の店でいただく汁物は、まずいのに。 何という味！。 野菜たちから出る味だ。

清瀬のゴボウは、昔の品種よりも根の皮が軟らかである。美味しい。 以前(昭和)の黒くて厚い皮ではない。 独特の香りはしっかりとある。

私も2年がかりで作る「ゴボウ作りの挑戦」をしていたのですが、いまだに旨く出来たことがない。 ゴボウを作るには畑が狭すぎる。 スーパーで売られている野菜は見たところ美味しそうであるがダメ(X)ですね。

旨味の成分は、N・P・K 化成8・8・8だけでは出来ませんから旨くない。 その点、有機野栽培の菜は、どの野菜をいただいても美味しいのであります。

2月号で書いたのですが、近所にお住いの田中さんに(元農家)、『筒口さんの小松菜は、昭和の味がして美味しかったり』と、いい気になって鼻高々。喜ぶ。プロの有機・無農薬、減農薬の専業農家さんの作る野菜は、スゴイ。 戴いた美味しい野菜を食べて・・・、小理屈をこねている私が、恥ずかしくなりました。 全く。 反省する次第であります。



ツルナ ブロccoli(収穫痕)



ハクサイ ダイコン キャベツ

南の畝から順に、ツルナ、ブロッコリーと芽キャベツ。 白菜とキャベツ。

中央作業路は、1段下げて、排水をよくする。支柱で囲ったところ、ヤマノイモとアピオスとオカワカメ(雲南百薬)等の蔓物。この畝は、予定ではサヤエンドウをこれから作る。中央作業路の直ぐ北側に水棲植物場のコンテナを置く。低い通路にしている。ブロッコリー2種。皆、元気元気。

一番北側に、松村さんから戴いたイチゴを植える。保温を兼ねて「プチプチシート」を掛ける。畝の空いた所に春菊、レンゲ、小麦、シュンギク。

腰痛の痛さに「歯」を食いしぼる。このところの腰痛で、畑に行けないので心配である。(11/17)



加温部の縮小 ジャボチカバ 梱包用プチプチシート ミラクルフルーツ

温室の加温面積を縮小しました。 低温に弱い物は、その中に保存します。最低 12℃は、ほしい。ミラクルフルーツは、12℃。ジャボチカバは 10℃。

保温強化をしたことで、パイロットランプが消えていることが多くなった。節電である。

越冬野菜の取り込み サトイモ、サトウキビ、サツマイモ。オカワカメ、ショウガ、……。熱帯小果樹。熱帯小果樹は低温で、「葉」を落とさないことが大切である。アボガド、胡蝶蘭と、ブーゲンベリヤを探している。

パパイヤは今年は、中止。果実、野菜としていただきたいであるが、止めている。種から良く発芽するそうなので、種子から始めたい。4月待ち。「レモンユーカリ」(防虫用⇒葉を刻んで撒く)、も越冬させている。

高校時代の友達(M氏)が、屋上でかなり色々の野菜を栽培しているとの事で見に行きたいのですが、お嫌なようなので、出かけることが出来ない。野菜作りの「ノウハウ」を語り合いたいののですが、その様なことが嫌なようである。相手があってのことですから遠慮している。本格的に手作りの「ボカシ肥料」を作り「無農薬」で進めているらしい。長く野菜作りに励んでいらっしゃると思う。

屋上と言う特殊な環境で色々苦心があると思います。そこら辺りを知りたいのですが、……。屋上では、養蜂もおやりなのでは、……。ね。

近頃の公立中学校の校舎改築では、屋上に農園を作ることも始まっているので、大変興味があります。

当時の高校は、クラス在籍者が 62～63 名の超過密で、教卓のすぐ前か、近く

に、私の席がありました。この学校に6年間お世話になったのですが、中3から、高3まで、4年間、どう言う分けか同じ数学の教師(『三角ベース』『オチョボ』)が、担任でした。先生方のお名前は多くは、忘れてしまいました。6歳上に兄貴が居ましたので「あだ名」を教えてもらった。そのせいでしょうか、いまだに色々よく覚えております。前にも書きましたが、「図書館」「体育館」の屋上に畑地がありました。生物の名物教師は、ジャワ方面からの帰還された戦士、「友岡先生」でした。修学旅行引率後、若くして亡くなってしまわれた。世田谷のご自宅には、針葉樹が集められていた。今私が、サトウキビやパパイヤを植えたりしているのは、この恩師の影響でありましょう。

狭い小庭に果樹を植えてありますが、遂に2階の屋根を超えてしまい、お隣りさんの旦那の「渋い面」。植木屋さんに太枝を払ってもらいました。思わぬ「大出費」。見越して、色々機材をそろえていたのですが、工具を扱う体力が無くなっていて、プロに頼みました。1本4万円。×〇本と言うことになりました。樹木の生長は恐ろしい。「恐ろしい」に尽きるのであります。

昆布の旨味、鰹節の旨味、シイタケの旨味、トマトの旨味、小松菜の旨味、ネギ・・・。 どれをとっても、生命体が生み出す美味しさであります。 有機栽培で作られた野菜達は、美味しい。美味しさは生命体が生み出すのであります。水耕栽培や、N・P・Kの化成肥料で育てられた野菜たちはそれなりで、旨さは、期待できない。スーパーに並ぶ化成肥栽培、農薬漬けの、形だけの野菜に期待できない。家庭菜園では、その所の納得のいく野菜を作ろうではありませんか。私が、有機・無農薬での栽培にこだわる理由は、ここにあります。林の裾野、河川敷、原、・・・では、長い間にエネルギーを蓄えて、大循環を続けている。生命体が蓄積されている。その様な耕地で作られた「健康・元気野菜」は美味しいのであります。安全安心なのであります。 野菜独自の味、香、養分豊・・・ 有機栽培は、良い事ばかりなのであります。野菜たちは、自らが「病・虫を忌避」する成分を作るのであります。

「元気野菜」「健康野菜」で、無農薬栽培が出来るのです。 農薬を使わない、野菜を作りましょう。この1年間の締めくくりとして、色々と考えてみました。

ネズミ 我が家にやってくるネズミ、困った者であります。先ずはブドウがやられる。鼠が、こちらを向いてご挨拶。今年こそブドウを食べられると思っておりましたが、やられた。田中さん宅の猫「プチ」・・・口の周りに黒い斑点が入る可愛いやつ。農園の中に入った子犬に追い回されたところを、助けたことを覚えていて「プチ」は寄ってくる。頭が良いようだ。田中宅の猫たちからカリル・・・?。今度お借りしようと思っているのですが、妻が大反対。菜園に使う有機物は全て容器に保管しているので害はないが、ミニ温室のジャボチカバもミラクルフルーツも食われてしまう。殺鼠剤は、使いたくない。彼の者どもが逃げ出す良い工夫は無いものであろうか!。お教えください!。 T、